

**<GAP 普及大賞 2019>**  
**北海道中標津農業高等学校が受賞！**  
**GAP を学ぶ中で、地域農業の課題解決につながる手法を**  
**考案したチャレンジが評価されました**

一般財団法人日本 GAP 協会（代表理事専務：松井俊一）は、GAP 普及大賞 2019 の選考委員会を開催し、2 つの GAP 普及の優良事例を表彰することを決定しましたので、ご報告致します。

**■GAP 普及大賞受賞事例：北海道中標津農業高等学校**

日本有数の酪農地帯にある北海道中標津農業高等学校は、GAP について学ぶ中で、地域農業の課題を的確に把握し、解決に向けスマートフォンを活用した手法を考案しました。このことは地域農業の課題解決に期待される取組となっており、教育機関として取り組む GAP 普及の好事例として高く評価されました。

北海道中標津農業高等学校の生産技術科動物活用研究班は、JGAP 家畜・畜産物（乳用牛・生乳）を実践しており、GAP チャレンジシステムの確認済み農場です。この活動の中で GAP の実践に必要な作業手順書を日本語のみならず英語を併記して作成するとともに、酪農ヘルパーや外国人技能実習生などにも正しい作業手順を容易に覚えてもらえるよう動画で確認できる手法を考案しました。具体的には、作業手順の動画を撮影し、マトリクス型二次元コードを用いて容易にスマートフォンなどにより動画で作業手順を確認できるという、高校生らしい着眼点の解決手法です。

この手法は、酪農が基幹産業である中標津町において、酪農ヘルパーや外国人技能実習生も含む従業員への教育や指導を円滑にすることから、実用化が期待されています。雇用型の酪農経営では、外国人も含む従業員に正しい作業手順を教育し理解してもらうことが GAP 実践の際の一つの障壁となっているため、この課題解決に資する本手法は、地域の酪農経営への GAP 普及に貢献するものと思われます。さらには、教育機関としての学校における、今後の GAP への取り組みの方向性にも示唆を与えるものです。

これらの取組は、GAP 認証と生徒による普及活動という従来の学校における GAP 活動のワクを超え、地域農業の課題解決から日本の酪農の発展までを視野に入れた新たなチャレンジとして、GAP 普及大賞にふさわしいものと高く評価されました。

-----

GAP 普及大賞は、一般財団法人日本 GAP 協会が主催する、今年一年間で最も GAP の普及に貢献した取り組み事例を表彰するものです。GAP 普及大賞 2019 の選考委員は次の通りです。

岩元明久（日本農業普及学会 副会長）、小池 甲（新潟県農林水産部農産園芸課生産環境係 主査）、田口光弘（農研機構中央農業研究センター農業経営研究領域 上級研究員）

また、同時に「グランイート銀座」も GAP 普及大賞を受賞しました。以上の 2 受賞事例について、下記のシンポジウム内で、表彰式と受賞者による記念講演が行われます。ぜひご来場下さい。

**■シンポジウム「GAP Japan 2019」**

- ・日時：2019年10月9日（水） 13時から17時30分
- ・場所：東京大学 弥生講堂（東京都文京区弥生1-1-1）
- ・関連ホームページ：<https://2019.jgap.asia/> ※参加申込を受付中です
- ・問合せ先：荻野（おぎの）TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: [info@jgap.jp](mailto:info@jgap.jp)